

## 図書館員に求められる資質

司書課程委員会委員長 佐藤 允 昭

優れた図書館員には専門職としての能力だけでなく資質も求められる。能力の向上は教育によってある程度図ることが期待できるが、資質はどうか。

ところで、図書館員として身につけるべき資質とは何か。1996年、米国専門図書館協会が公表した「21世紀に向かって求められるスペシャルライブラリアンの能力と資質」では、資質(Personal Competencies)について次のような項目があげられている。

優れたサービス気質を持つ。

図書館の内外を問わず、チャレンジを求め、新しい好機に気を配る。

広義的に物事を見る。

相互利益となる協力関係を模索する。

互いに敬意を払い、信頼できる人間関係を築く。

効果的なコミュニケーションスキルを持つ。

チームの一員として、他者と上手に働く。

リーダーシップを発揮する。

重要項目について、企画立案し、優先順位を付け、焦点を合わせる。

生涯学習や自己のキャリア向上を追求する。

企業家精神や独立事業を起こすに必要なセンスを持ち、新たなチャンスを作り出すことができる。

代専門職間のネットワークと連携の価値を認識している。

変化し続ける時代に、柔軟にかつ積極的に対応することが出来る。

以上が、21世紀に向かってスペシャルライブラリアンが身につけるべき資質というのであるが、これが図書館員に求められる資質の全てを網羅しているかはともかく、ある程度の目安にはなる。

周囲を見渡せば「能力はあるけれど資質に欠ける」という人物は珍しくない。「協調性に欠ける」、「チームの一員としての自覚がない」などという人は、図書館に限らずどの職場にもいるのではないか。このような場合、たいがい周りが「あの人はしょうがない」とあきらめている。本人もそれを心得て開き直っている場合がある。

私は大学教育において図書館員としての資質の向上を図ることは可能であると思う。教師は出来るだけ早く欠点を見出し、自覚を促しながら気長に指導する。しかしそのためには、本学の場合少なからず問題がある。まず少人数授業の実現。1クラス200人以上という講義では、一人一人の資質は把握できない。次に図書館実習を必修としたい。実学である司書養成教育は教室の中だけでは限界がある。現場にたつてこそ自らの資質の有無に気づくこともあるのではないか。カリキュラムの問題もある。現行のカリキュラムは知識・技術に偏っており、サービス精神や職場における協調性などには触れない。

まだまだあるが、紙幅に限りがあるのでこのくらいにしよう。いずれにしても能力だけでは優れた図書館員にはなれないということである。卒業生諸君の今後の健闘を祈る。

(さとう・まさあき)